

自主参加型国内排出量取引制度シンポジウム

JVETS(第2期)

「取引参加者」が果たすべき役割

オリックス環境株式会社

営業企画部 オフセットビジネスチーム

伊藤 秀幸

2009年3月25日

オリックス環境(株)について

<設立> 1998年4月

オリックスグループの環境部門として…

◆現在の主要事業

1) (オリックス)リースアップ物件の回収から

廃棄処理までの管理業務受託

2) 廃棄物処理等の仲介業務およびコンサルティング

3) 再資源化物(原料、素材、部品、中古品等)の取引

4) 環境経営支援サービス、コンサルティング業務

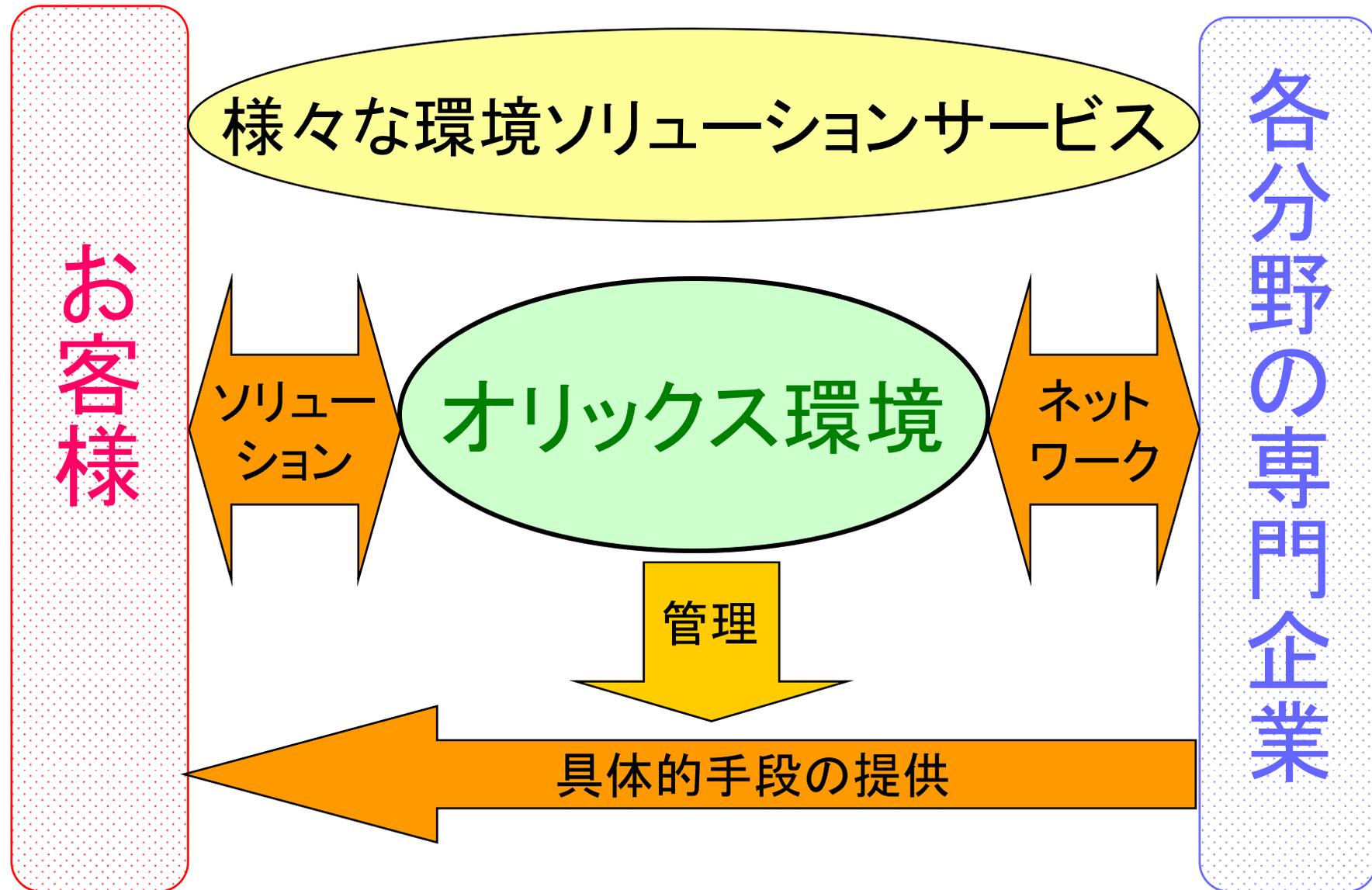
5) 温室効果ガス排出量取引、カーボン・オフセットプロバイダー

循環型社会
対応から

低炭素社会
対応へ

お客様の企業経営を環境面からバックアップし、環境負荷低減へのご支援を通して、
持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。

オリックス環境(株)の基本的なビジネスモデル



オリックス環境(株)が提供する環境ソリューションの一例

【右上】

PCデータ消去 / 八千代ストックヤード



【左下】

ECOBox (重要文書溶解処理)

【右下】

工場内等不用設備一括買取サービス



JVETSへの参加動機

2005年2月 京都議定書の発効

地球温暖化問題
への意識の変化

新規ビジネス立ち上げを模索
市場の研究、知見の蓄積

JVETS 取引参加者

活動報告①ー1（参加者へのアプローチ経緯等）

2008年4月:

「連絡先リスト」をもとに各目標保有参加者へ電話を開始。2007年度CO₂排出量の状況をヒアリング。
並行して、排出量取引に関心のある参加者へ訪問を開始

2008年5月:

- ・相対取引を想定し、弊社オリジナルの売買契約書を作成
- ・目標保有参加者が検証機関の実施年度検証を受審

2008年6月:

- ・排出枠の不足及び余剰量の大きな目標保有参加者に重点を置いて訪問
- ・弊社初の取引(購入)が成立し、排出枠の移転実施

活動報告①－2（参加者へのアプローチ経緯等）

2008年7月：

- ・「JPA」を用いたカーボン・オフセットの日本初の取組を実現
→オリックス自動車「カーシェアリング事業」において
- ・算定および検証結果の確定後、排出量取引を検討している目標保有参加者へ再度取引のご提案
- ・複数の排出枠不足企業から購入希望の打診を受ける

2008年8月：

上旬 排出量取引が活発化

中旬 アプローチをしていなかった目標保有参加者（売買両方）からも問合せを頂く

下旬 更に排出量取引が活発化

⇒ 2008年9月上旬のバンキング期間を経て、第2期事業終了

活動報告②（取引件数等）

◆アプローチ企業数

56社（電話および訪問数。全目標保有参加者の約9割）

◆取引実績数

15件

◆取引企業数

13社

◆取引（排出枠移転）の月別状況

2008年4月 0件

2008年5月 0件

2008年6月 1件

2008年7月 1件

2008年8月 13件（上旬 1件 / 中旬 4件 / 下旬 8件）

活動報告③（取引内容）

◆取引方法

相対取引：**15件**、GHG-TRADE：**0件**

⇒他の取引参加者との競合、入札方式等により成約・非成約あり

◆総取扱数量

12,204 t-CO₂

◆余剰分の排出枠について

全量 翌期へバンキング申請 → 第3期用に開設した弊社の保有口座へ

◆取引価格（購入および売却時の平均単価）

〔参考〕環境省公表の平均取引価格



・第1期：1,212円 / t-CO₂

・第2期：1,250円 / t-CO₂

取引参加者として活動した感想①

- ◆ 取引の当事者間(目標保有参加者同士)では、排出枠の余剰・不足に関する情報交換は皆無に近く、実際の取引を円滑に促すには取引参加者の果たす役割は大きい
- ◆ 売買に積極的な取引参加者が少ない印象で、また余剰排出枠を売却しない目標保有参加者もあり、活況な市場形成にまでは至っていないと思われる
- ◆ 予想以上に排出枠が余剰となる企業が多かったため、需給の関係はアンバランスであった(マネーゲームには成り得ない)
- ◆ 商談では、余剰(売却側)企業からはCER・EUA価格を引き合いに出されることが多かった

取引参加者として活動した感想②

- ◆ 取引に応じてくれるのは、検証結果の確定後のため、実際の取引期間が8月に集中した ← お盆休みの影響大
- ◆ 目標保有参加者が償却口座に排出枠を移転し、目標達成を確認した後、一定期間は余剰排出枠の移転が出来ず、取引実施のタイムスケジュールが読めなかった
- ◆ 目標保有参加者の採択から、排出枠の取引終了期間までが1期につき、約2年半にわたる事業のため、複数の参加者において、期中での担当者変更があり、新任の方が戸惑っておられた
- ◆ 本事業の説明、排出量取引(登録簿の操作)の方法など、価格交渉に行き着く前の「制度の概要」をお話をする機会が多々あった
- ◆ 目標保有参加者の声を環境省に届けて欲しいとの依頼

目標保有参加者から聞かれた声

- ◆ 制度自体が始まったばかりであるため、検証機関との見解の相違（特に基準年と実施年のガス係数の取り扱い）や、検証を受けてからの結果が出るまでに要する時間などへの意見があった
- ◆ 初めてのことばかりで、排出量取引に関する社内稟議の決裁やコンセンサスを取るのに相当の時間を要する
- ◆ 余剰な排出枠が出た企業の場合、不足企業への売却だけではなく、カーボン・オフセットへの活用を望まれることもあった
- ◆ 福田ビジョン（2008年6月9日公表）以降、「秋にも開始」と明言された排出量取引の試行制度とJVETSの位置付けが頻繁に話題となった

JVETSに参加して得た成果

■ 排出量取引に関する一定の知見習得

- ・ 売買契約書の整備(法務)や、会計・税務等の専門部署による対応
- ・ 海外での動向に対する視野の拡大

■ 収益面

- ・ 参加者数および取引の絶対量から、採算性が見込めるには、かなり程遠いレベル(但し、将来性如何では新規事業としての魅力は十分)

■ カーボン・オフセットへの展開

- ・ 「あり方指針」(2008年2月)において、オフセットに用いることのできるクレジットの一種として「JPA」が位置付け → 日本初の事例を実現

⇒ 低炭素社会構築に向け、環境分野におけるオリックスグループのプレゼンス向上と新規ビジネス確立へのインセンティブとなった

JPAを用いたオフセット取組に関する実績

◇ カーシェアリング事業(オリックス自動車)

◇ プロ野球・クライマックスシリーズ(オリックス バファローズ)

◇ 食品残渣リサイクル処理システム(メリーズ・ジャパン様)

カーシェアリング

Press Release

2008年7月1日

各 位

オリックス自動車株式会社
オリックス賃貸株式会社

カーシェアリング事業でカーボン・オフセット取組みを開始
～「環境省・自主参加型国内排出量取引制度」を活用した国内初の取組み～

オリックス自動車株式会社(本社:東京都港区、社長:三谷 真司)は、オリックス賃貸株式会社(本社:東京都港区、社長:内原 英俊)との連携により、2008年7月1日から、カーシェアリング事業で使用する全車両においてカーボン・オフセット取組みを開始いたします。併し、排出枠(CAPA分)を活用したカーボン・オフセット取組みは、国内初の事例となります。

オリックス自動車は、2008年より環境に配慮した新しいクルマの利用手段としてカーシェアリング事業を推進してきました。このたび、さらなる環境貢献への貢献を目指し、カーシェアリング車両から排出されるCO₂の全てを相殺する自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)において、排出枠の付帯な取引を「取引参加者」としての採択を受けています。オリックス賃貸は、本制度に参加することにより、従来の本格的な排出量取引を見据えた実効的且良の環境対応の市場の研究を進めてきました。(参考:4月1日コソフスト) http://www.orix.co.jp/press/080701_kashari.pdf

本取組みにあたって確保するJPAの一部は、日本ヒューテックグループと提携の環境技術センターから購入しています。また、今後のJPAの確保については、CO₂削減有効電力を確保しているJVETSの参加事業者から、継続的に行っていくとと考えています。

今後、オリックス自動車では都心部の交通渋滞の緩和や公共交通機関の活性化、都市の駐車問題の解消、CO₂削減による地球温暖化の防止などに向けて、さらにカーシェアリング事業が寄与できるように推進していきます。

また、オリックス賃貸では、今後もオリックスグループの環境専門企業として、地球温暖化をはじめとした環境問題に真摯に取り組んでいきます。

(注)本取組みで使用する排出枠(JPA)は、本年5月に環境省より公表された「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(抜粋)」に掲載されているもの、(ご参考)環境省ホームページ http://www.ene.go.jp/press/080616/kenban/carbon_offset/080616_04090307.pdf

2008.7.1 プレスリリース

プロ野球

Press Release

2008年10月10日

各 位

オリックス株式会社
オリックス野球クラブ株式会社

～「パシフィック・リーグ クライマックスシリーズ 第1ステージ」における環境への取組み～
～バファローズが京セラドーム大阪でカーボン・オフセットを実施～

オリックス野球クラブ株式会社は、京セラドーム大阪で開催される「パシフィック・リーグ クライマックスシリーズ 第1ステージ」において、試合時に使用する電力から排出されるCO₂をカーボン・オフセットいたします。

オリックス野球クラブは、日本野球機構と12球団による環境保護活動(NPB2008 Green Baseball Project) (注)を推進してまいりました。さらなる環境への貢献を目指し、オリックス賃貸株式会社(本社:東京都港区、取締役社長:小原 真一)とのグループ連携により、「パシフィック・リーグ クライマックスシリーズ 第1ステージ」で開催される全試合において、試合時に使用する電力から排出されるCO₂の全てをカーボン・オフセットにより相殺します。

参加球団

◆カーボン・オフセットの範囲:
「パシフィック・リーグ クライマックスシリーズ 第1ステージ」(開催球場:京セラドーム大阪)において、試合時に使用した電力から排出されるCO₂のオフセット

◆対象期間:
2008年10月11日～2008年10月18日(最大試合数8試合)

◆認定方法:
◆認定期間中の電力使用量は、地球温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量(定額・公算)測定で使用されている電力単位当たりのCO₂排出係数を乗じて、排出量を算出します。

◆取組み内容:
環境省・自主参加型国内排出量取引制度 (JVETS)

2008.10.10 プレスリリース

食品リサイクル

Press Release

2009年2月23日

各 位

株式会社メリーズ・ジャパン
オリックス賃貸株式会社

「食品残渣の地域内循環・オフセット」で高付加価値サービスを実現
メリーズ・ジャパンがカーボン・オフセットを実施
～オリックス賃貸 グループ向けに初のオフセット取組み～

食品産業のリーディング企業を目指す株式会社メリーズ・ジャパン(本社:千葉県市川市、代表取締役社長:市川 隆行)は、本日より、金沢市・金沢市・金沢市でカーボン・オフセットを実施します。これにより、メリーズ・ジャパンは食品残渣の地域内循環だけでなく、より環境に配慮したサービスをお客さまに提供することが可能となります。

なお、オリックス賃貸株式会社(本社:東京都港区、取締役社長:小原 真一)が本取組みを支援します。

参加球団

◆対象期間:
2009年2月23日～2010年8月31日

◆対象施設・事業:
金沢市・金沢市
①メリーズシステム松戸資源循環センター(千葉県松戸市)
②メリーズシステム北九州エコテックリサイクルセンター(福岡県北九州市)
③メリーズシステム食品残渣処理センター(東京都)

◆対象施設:
対象施設①・②は、食品残渣を高付加価値品(飼料および再生材)とする際に排出されるCO₂量、対象事業③は、食品残渣を当該施設で処理する際に排出されるCO₂量

◆認定方法:
北九州国立大学の協力のもと、LCAを評価によって算定

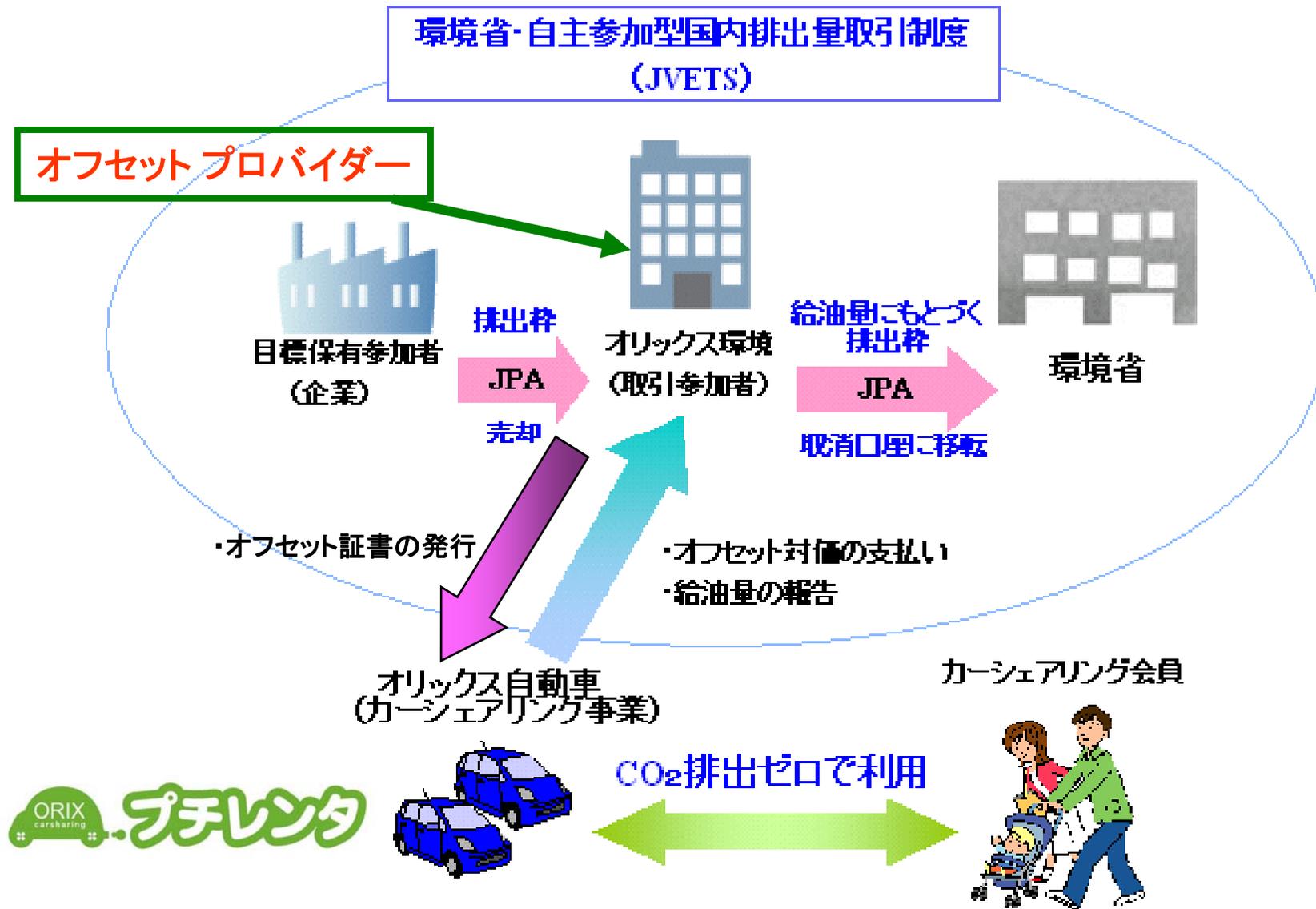
◆利用の排出口:
環境省の自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)にて取引される排出枠「JPA」

◆実施および結果報告:
CO₂排出量に相当する排出枠をJVETSで買い取る整備を経て簡便化し、オフセット案件結果をメリーズ・ジャパンおよびオリックス賃貸のホームページにて公開予定

◆取組内容:
JVETS

2009.2.23 プレスリリース

カーシェアリングのオフセット取組に関するスキーム図



【ご参考】オリックス環境(株)発行のカーボン・オフセット証書

sample



Carbon Offset Certificate
カーボン・オフセット証書

オリックス自動車株式会社 御中

2008年07月01日付で貴社と締結したカーボン・オフセット業務委託契約(以下「オフセット契約」といいます)に基づき、下記のとおり委託業務に基づくカーボン・オフセットが完了したことを証明します。なお、本証書で使用される各用語は、本証書で別途定めるものを除き、オフセット契約において定義された用語と同一の意味を有するものとします。

記

【算定期間】
2008年07月01日～2008年09月30日

【対象活動】
貴社が実施する ITS-CEV システム導入(以下「カーシェアリングシステム」といいます)において、カーシェアリングシステムの利用者に貸し出す車両(以下「対象車両」といいます)の走行に伴う燃料消費。

【オフセット行為の対象となった本件クレジットの数量】
JPA176,229 kg-CO2

【本件クレジットのオフセット行為の方法】
本件クレジットを環境省が実施する自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)で使用される登録簿システム上の取引量への移行の方法による。

【本件クレジットの詳細】

本件クレジットの種類	JPA
プロジェクト	環境省 自主参加型国内排出量取引制度(JVETS) ・ピクタークリエイティブメディア株式会社が実施した個別熱質化システムによるボイラーレス・CO2削減プロジェクト
オフセット行為の実施日及び完了日	2008年10月29日
本件クレジットのシリアル番号	JP-000-000-001-544-321 ～ JP-000-000-001-544-396, JP-000-000-001-544-397(当該シリアル番号の本件クレジットのオフセット行為の対象となったCO2は、229 kg-CO2のみ)

登録簿行番号:ORIXECO2008-0001

2008年10月29日
東京港区芝 3-22-8 **オリックス環境株式会社** 

今後の活動

■ JVETS(第3期)

排出枠の不足企業への売却を中心に展開

■ 「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」

JVETSで培った知見を活かす絶好の機会
積極的関与(取引参加者)に向け、情報収集とアプローチ
オリックスは目標設定参加者として取り組み

■ カーボン・オフセット

「JPA」をはじめ「CER」や「J-VER」等、顧客ニーズに
合わせ、各種クレジットを用いた取り組みの促進

本件に関する連絡先

ほ か に は な い
ア ン サ ー を 。
O R I X

オリックス環境株式会社

〒105-0014 東京都港区芝3-22-8

TEL: 03-6436-6711 FAX: 03-6436-6746

<http://www.orix.co.jp/eco>

営業企画部 オフセットビジネスチーム

伊藤 秀幸

E-mail : hideyuki_ito@eco.orix.co.jp

ご清聴、ありがとうございました。